

2018年5月1日

自己点検 自己評価

学校法人 ユニタス日本語学校

校長 上田一彦

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

| 1. 教育理念・目的等 | 評価 |
|----------------------------|----|
| 1 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか | 5 |
| 2 1-2 学校の特色は何か | 5 |
| 3 1-3 学校の将来構想を抱いているか | 5 |
| 4 1-4 理念に基づく教育が行われているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

本校は創立以来、以下の理念・目的を追求し実践している。

- 1) 日本語の習得を通じ日本文化に対する理解を深める。
- 2) 各国学生間の相互理解。
- 3) 世界平和に貢献できる人材育成

この理念・目的に従い、レベルに応じた授業を展開し個々の日本語能力を高めていく授業を実践している。入学時と3か月ごとに能力確認試験を行いクラス編成しているが、初級クラスに関しては数週間後に再度能力確認試験を行い、クラスの再編成をしている。また、中級以上のクラスであっても必要に応じて学期の途中であってもクラスの再編成を行っている。通常の日本語教育に加え、書道・茶道・琴など文化体験も授業で行うのみならず、修学旅行を通して日本各地を見聞する機会を設けている。当校の特色は多国籍であり、学生は世界各国から募集を行い、常時20か国以上の国の学生が在籍しており、その学生同士の交流を通して互いの文化・宗教・風土を理解しあっている。この相互理解が深まることにより日本語を通してお互いに思いやりをもつ人材育成ができていると言える。

また、学生の学習目的は大きく進学・就職・日本語習得の3つに分類されるが、いずれの希望にも沿うような適切な進路指導を行っていることも特色であると言える。

将来的な構想は以下に示す。

- 1) 教育の質の向上
- 2) 学生の質の向上
- 3) 進路指導・就職支援の強化
- 4) 学生指導の徹底
- 5) ICTを活用した教育、学生管理、業務の効率化
- 6) 学校法人の健全な運営

以上の構想は理事会・評議会、教務会議・事務会議にも示され徹底されている。

| 2. 学校運営 | | 評価 |
|---------|---|----|
| 5 | 2-1 運営方針は定められているか | 5 |
| 6 | 2-2 事業計画は定められているか | 5 |
| 7 | 2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか | 5 |
| 8 | 2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか | 5 |
| 9 | 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 |
| 10 | 2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか | 5 |
| 11 | 2-7 危機管理体制は整備されているか | 5 |
| 12 | 2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できる よう学校教育法に基づき整備されているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

運営方針と事業計画については、毎年、学校法人の理事会並びに評議会の場にて運営方針と事業計画が示され、理事・評議員の承認を受けたうえ、教職員に示される。

週 1 回、校長・教務主任及び副主任・事務主任及び副主任で通常の業務に関する諸問題を話し合い、その後教務・事務の全体会議にて決定事項を示す。四半期毎の非常勤職員を含めた職員会議にて学校運営上の課題が議論され、運営計画・事業計画に反映されており、効率的な運営体制が整っている。

情報化システムについては、2名の情報システム担当を置き、各部署から改善要望を聞き、対応をしている。

危機管理については、防火担当者を置き適切な消防計画を作成し、所轄官庁に提出をしている。

施設・設備は、学校基本法に基づき整備され、実地審査を受けている。

| 3. 教職員 | | 評価 |
|--------|--------------------------------|----|
| 13 | 3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか | 5 |
| 14 | 3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか | 5 |
| 15 | 3-3 教職員評価を行っているか | 3 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

事業計画策定時に理念・目的・目標等を基に全職員から意見を聞き、校長・副校長・教務主任・事務主任が中心になり事業計画を策定している。

教育の質の向上については、定期的に研修会を開き、職員の中で経験豊富なものが講師となり、指導方法の勉強会を行っている。

教職員評価について、教務では契約更新時などに授業見学を行い、教務主任が講師の評価を行い、校長に報告をしている。また、評価については、各講師にもフィードバックをし、教育の質の向上を図っている。事務職員については事務主任が評価を行い校長に報告を報告している。評価結果は、時給の改訂及び期末手当に反映される

| 4. 教育活動 | | 評価 |
|---------|---|----|
| 16 | 4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか | 5 |
| 17 | 4-2 授業評価の実施・評価 | 5 |
| 18 | 4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか | 5 |
| 19 | 4-4 成績評価は適切に行われているか | 5 |
| 20 | 4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

入学前にプレースメントテスト、学期末の到達度テストの結果をもとに、日本語能力の到達レベルに応じて、クラス分けがなされている。初級クラスにおいては、学期の途中に再試験を行い、クラスの再編成がなされる。同一レベルのクラスにおいても複数のクラスに分け、更なるクラスレベルの均一化を図っている。

各クラスには教務担任と事務担任を置き、その担任が毎週各クラスの様子やテキストの進度などのミーティングを行い、報告書にまとめる。また、教員間で定期的に行う学生アンケートを行うことにより、学生の希望・要望を確認し、教務主任及び副主任を中心に指導方法の改善を図る。さらに、定期的に模擬授業・研修を行い、問題点と互いの指導能力の向上を図っている。教員の採用時には、教育理念・目的を説明した上で、模擬授業をしてもらい十分な資質を持った教員を採用している。更に、新任講師には先輩講師の授業見学、教案指導、研修を行い、指導力の向上に力を入れている。

成績評価については、クラス毎に小テストを行い学習の定着を図り、期末ごとの到達度テストで次のクラスを決めている。

試験対策については、学生の希望による選択制の対策を授業の中で行う他、学期休みを使い日本語能力試験対策クラス・留学試験対策クラスを科目別に設置し、各試験合格への取り組みがなされている。

| 5. 学生支援 | | 評価 |
|---------|---|----|
| 21 | 5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか | 5 |
| 22 | 5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか | 5 |
| 23 | 5-3 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか | 5 |

| | | | |
|----|-----|--------------------------|---|
| 24 | 5-4 | 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか | 5 |
| 25 | 5-5 | 保護者と適切に連携しているか | 5 |
| 26 | 5-6 | 卒業生への支援体制はあるか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

当校は35年以上の歴史があり、長年の蓄積による情報を駆使し学生のあらゆる要望に応じている。適切な進路指導の結果、合格率は100%であり、就職についても専門の部門を組織し教務・事務で協力し合いながら適切な就職支援を行っている。

進路・就職相談については、適切な時期に進学・就職説明会を行っている。また、個別にも随時相談を受ける体制を整えている。また、中国語・韓国語・ベトナム語・英語ができる職員を採用し、言葉に不安がある学生への対応も十分に配慮されている。

日本での生活の不安がないよう、事故・病気などの緊急対応も行い、言葉に不安のある学生については、病院・役所等へも同行し支援をしている。

学生寮は、学生の希望を踏まえ、適切な場所を提供している。各部屋に問題が発生した時には、学生からの要望を即座に管理者に伝え改善を図るようお願いをしている。

日本での生活において何らかの問題が発生した時には、保護者に適宜連絡し、連携しながら問題解決を図っている。学生の問題については、その都度紹介機関にも連絡をし、連携をしている。

卒業生が証明書等必要な際や何らかの要望がある場合には、事務が適切に対応している

| 6. 在留管理と生活指導 | | | 評価 |
|--------------|-----|-----------------------------|----|
| 27 | 6-1 | 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切になされているか | 5 |
| 28 | 6-2 | 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか | 5 |
| 29 | 6-3 | 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか | 5 |
| 30 | 6-4 | 常に最新の学生情報を把握しているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

入国・在留管理指導については、入学時と各学期の在校生オリエンテーションを行う。新入生には各国語にて、在校生には日本語にて行い、入管よりの最新の指導及び出席率の重要性・資格外活動の禁止事項指導はもちろんのこと、基本的な日本社会のルールや生活習慣、学則について具体例を示しながら指導を行っている。

学生情報については、各クラス担任より毎週クラスの状況報告がなされ、問題や情報を共有している。クラス担任より報告を受け緊急を要する問題は、学生を呼び出し即座に対応を行っている。また、定期的に進路希望調査を行い、適切な指導をするとともにその情報を共有している。

| 7. 学生の募集と受け入れ | 評価 |
|------------------------------------|----|
| 31 7-1 学生の受入方針は定められているか | 5 |
| 32 7-2 学生募集活動は、適切に行われているか | 5 |
| 33 7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 5 |
| 34 7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか | 5 |
| 35 7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

受け入れの基本方針は、当行の教育理念・目的に合わせ決められている。また、校長を中心とし、各募集担当からの意見を基に年度ごとの募集方針を決めている。

危険 7 か国（中国除く）については、現地での試験を必ず実施し、面接にて日本語学習目的及び学習歴・学歴・支弁能力を確認している。面接は確認項目を面接票に明記し、得点化している。試験・面接の得点にて基準を満たす優秀な学生のみを受け入れている。危険国でない場合であっても、必要と判断した場合は面接・試験を行う。

学生募集については、信用ある紹介機関と提携している。紹介機関については、学生面接同様、学校を訪問し学生の様子を見学したうえで、責任者と互いの教育理念・目的を確認し、理念の共通する機関とのみ契約書を交わし提携している。

ホームページ・パンフレットに卒業生の進学実績を掲載し、募集の際の説明資料の一つとして活用している。

申請者から提出された書類は、公正かつ適正に審査し、手続きを行っている。学生募集は、認可された定員の中で適正に行われ、在籍数も定員の中で保たれている。

| 8. 財務 | 評価 |
|---------------------------------|----|
| 36 8-1 長中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 5 |
| 37 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 5 |
| 38 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか | 5 |
| 39 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか | 3 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

帝京大学グループの一つとして、長中期的な財務基盤は安定したものとして確立している。

新年度の予算・収支計画については、理事会・評議会場で審議され承認を受ける。決算においては、適正な会計処理を行い、会計監査を受け、理事会・評議会に報告がなされ、承認されている。

現在のところ、財務情報公開については検討中である。

| 9. 法令等の遵守 | 評価 |
|-----------------------------------|----|
| 40 9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 5 |
| 41 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか | 5 |
| 42 9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 5 |
| 43 9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか | 5 |
| 44 9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

日本語学校として、法務省設置基準を満たし、法務省からは適正校として認可を受けている。東京入国管理局への定期報告等必要な報告も期限までに適正に行っている。

個人情報の取り扱いについては、全職員に個人情報の保護に努めるよう徹底を図っている。

全体的な自己点検・自己評価を行ったのは今回が初めてであり、これまではホームページなどでの公開していなかった。今回を機に公開を始めたい。今後さらなる改善に努め、評価の向上を図っていききたい。

| 10. 社会貢献 | 評価 |
|------------------------------------|----|
| 45 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか | 5 |
| 46 10-2 学生ボランティア活動を奨励・支援しているか | 4 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

社会貢献として、土日には、空いている教室を地域活動のために貸し出しを行っている。また、その活動にて学生参加が可能な場合は積極的に学生も参加させ、地域との交流を図っている。

地元の行政・自治会などの要請により、地区の祭りへの参加、行政主催によるイベントへのボランティア活動を行っている。

〈総括〉

当校は、日本語学校として35年以上の歴史があり、これまで多数の学生を輩出している。学生の国籍は多岐にわたり、現在約20か国から学生を受け入れている。学生選抜のための試験・面接は基準を高く保ち、応募してくる学生からも試験の厳しい学校と認知されている。

進学指導を主として進路指導をしているが、近年は就職希望の学生も多く、今後は就職支援にも力を注ぐ予定である。個々の学生の希望が叶うよう進路指導には一番の力を入れ、合格率は100%を達成している。

学生からの更なる満足度を高めるため教職員の研修、業務のICT化を進め、教育・学生

管理・学校運営の効率化を進めることが課題となる。